

2025 年度 委員会事業報告書

担当副理事長兼専務理事 高嶺佑基

事務局長 池田耕介

1. 委員会開催日 (14 回)

01/09 02/13 03/13 04/10 05/08 05/19 06/12 07/02 07/10 08/07
09/11 10/06 11/13 12/04

2. 事業報告

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| (1) 定時総会・臨時総会の担当 | 1 月 28 日・8 月 26 日・12 月 23 日 |
| (2) 賀詞交歓会(1 月例会)の担当 | 1 月 22 日 |
| (3) わんぱく相撲海部津島場所(5 月例会)の担当 | 5 月 31 日 |
| (4) 西尾張 6JC 合同例会 (9 月例会) の担当 | 9 月 20 日 |
| (5) 卒業生を送る会(12 月例会)の担当 | 12 月 08 日 |
| (6) 西尾張 6JC 合同事業の担当 | 4 月 16 日 |
| (7) クリスマス家族会の担当 | 12 月 20 日 |
| (8) シニアクラブ総会の担当 | 1 月 22 日 |
| (9) 愛知ブロック 名古屋会議の担当 | 2 月 4 日 |
| (10) 日本 JC サマーコンファレンスの担当 (横浜) | 7 月 19 日 20 日 |
| (11) 日本 JC 全国大会の担当 (佐賀) | 10 月 10 日 11 日 12 日 |
| (12) 愛知ブロック 愛知ブロック大会小牧大会の担当 | 9 月 6 日 |
| (13) 公開討論会の担当【蟹江町】【愛西市】【大治町】 | 非開催 |
| (14) 西尾張 6JC じゃがいもゴルフコンペの担当 | 5 月 13 日 |
| (15) 総会の記録管理 | 1 月 28 日・8 月 26 日・12 月 23 日 |
| (16) 理事会議案の作成・精査 | 通年 |
| (17) JC ニュースの編集と発行 | 1 月・9 月・12 月 |
| (18) LOM ホームページ・SNS 運営の担当 | 通年 |
| (19) 総会・例会・各種事業の記録保管の担当 | 通年 |
| (20) 名刺作成の窓口 | 通年 |
| (21) JC 会員名簿等に関する窓口 | 通年 |
| (22) 定款諸規定及び会員名簿の作成 | 2024 年 12 月 |
| (23) ネームタグ、スローガンパネルの作成 | 2024 年 12 月 |
| (24) 卓上ネームプレートの発注 | 2024 年 12 月 |
| (25) 基本資料の作成 | 1 月 |
| (26) 一般社団法人海部津島青年会議所褒章及び 100%出席祝い品の選定 | 12 月 |
| (27) 卒業生記念品の選定 | 12 月 |
| (28) 西尾張 6JC 正副理事長会議の担当 | 2024 年 12 月 2 日・2025 年 2 月 10 日・4 月 8 日・6 月 25 日
9 月 2 日・10 月 20 日 |
| (29) LOM ポロシャツの発注 | 通年 |

(30)	定款諸規定の見直し	通年
(31)	LOM 運営マニュアルの見直し	通年
(32)	慶弔の窓口	通年
(33)	各諸団体の事業に関する窓口	通年
(34)	総会・例会の出席者確認報告	通年
(35)	新入会員の拡大	通年
(36)	新入会員の育成	通年
(37)	その他庶務	通年

3. 委員会メンバー

池田耕介 美濃島絢太

4. 反省点及び申し送り事項

事務局では、海部津島青年会議所をしっかりと下支えし、その運動発信に確かな共感や信頼を得られるように 1 年間、地に足をつけて一步一步邁進してまいりました。まずは、「事務局として、委員会との綿密な連携を心がけていくことで、会議の場で闊達なる議論が行われ、海部津島青年会議所が魅力的な例会や事業を展開していけるよう努めてまいります。」という部分を達成するために、委員会と議案の進捗状況の確認を行いました。資料の提出の期限を徹底することはできず、議案の配信が遅れ資料の精査も行えないままの議案を上程してしまいました。議案の配信や準備の遅れは理事会運営に影響を与えます。当日の配信が遅くなることで理事会が始まらず長引く原因を作ってしまいました。スムーズな理事会運営を行うためには提出期限の厳守は必須となります。事務局からの働きかけ、そして自分自身の議案管理ができていなかったことを深く反省しております。自分自身の改善点としては、正副スタッフ会議や理事会は日付が決まっていて、色々な予定も重なり時間を作ることが難しいこともありますが、1 日に 1 時間でも良いので議案に向き合い考える時間をとり真摯に向き合うことができるのではないかと考えます。委員会へのサポートという点では、自身の議案対応に追われてしまい、進捗管理を徹底することができませんでした。自分自身の業務が滞っている状況であったため、委員長へ適切なタイミングで催促や確認の連絡を行うことができず、事務局としての役割を十分に果たせなかったことを反省しております。また、委員会がより円滑に事業を進められるよう、議案作成のサポート体制や進捗確認の仕組みを見直し、より積極的にフォローしていく必要があると考えます。メンバーの下支えについては、事務局として例会運営などのサポートはできたと考えますが、理事会議案のサポートはできませんでした。以上の点から基本方針の部分は達成できなかったと考えます。

また、「行政や地域の方々に、これまでのご支援への感謝の意を示すと共に、2025 年度の運動方針を力強く発信することで、我々の運動方針への理解を深めていただきます。」という部分を達成するために賀詞交歓会を開催しました。賀詞交歓会では、所信表明や来賓紹介を行うことで、行政や地域の方々へ、これまでのご支援に対して感謝の気持ちをお伝えすることができました。また、所信表明や委員会紹介によって 2025 年度の運動方針を発信することで、この 1 年間にかける想いを伝えることができたので我々の運動に対しての理解を深めることができたと考えます。

さらに、「子供たちが相撲を通じて礼を学ぶ機会や、青年会議所と地域の連携の機会を今年も提供することで、この地域に海部津島青年会議所がある意味をしっかりと示します。」という部分を達成するため、第 21 回わんぱく相撲海部津島場所を開催しました。大会では、子供たちが他者を思いやる礼儀礼節を習得するとともに、地域の協働者との関係性を深めることを重視して運営を行いました。子供たちは土俵に上がる際、一礼して入場し、試合後には勝敗に関係なく相手に向かって一礼する姿や、運営スタッフに対して「お願いします」「ありがとうございました」と頭を下げる子どもも多くいました。この大会を通じて勝敗に関わら

ず全力で取り組み、互いに励まし合う姿が見られたので子供たちは礼儀礼節を学ぶことができたと考えます。そして、今年度は地域との連携の機会を提供することを考えていました。今年度は6校から多くのボランティアの皆さまに参加していただきました。参加いただいたボランティアの皆さまから良い経験になったのでまた参加したいとの声もいただきました。しかしながら、連携は相撲連盟とボランティアのみとなりました。地域との連携をより深めていくためには他の諸団体への声掛けも必要であったのではないかと考えます。大会を通じて子供たちは礼儀礼節を学び、高校生ボランティアや相撲連盟など地域の方々と深く関わることができました。また、子供たちやボランティアの皆さまから参加して良かった、次回も参加したいとの声もいただきましたので海部津島青年会議所がある意味を示せたのではないかと考えます。

そして、「これまで海部津島青年会議所を支えてきたメンバーの想いを、残るメンバーが胸に刻み、志を受け継ぐことで、その後の活動に精力的に取り組めるようにする」という目的を達成するため、卒業生を送る会を開催しました。当日は、卒業生によるスピーチを通じて、入会当時の想いやこれまでの活動で得た経験、そして青年会議所活動に懸けてきた志を直接聞く機会を設けました。その結果、残るメンバーが卒業生の想いと志を深く共有し、これを受け継ぐことで、今後の活動への意欲を高めることができたと考えます。

最後に、「日頃から青年会議所活動を理解し、支えてくれている大切な方に感謝を示し、ねぎらうことで、我々の活動への理解をより一層深めていただきます。」という部分を達成するため、クリスマス家族会を開催しました。当日は、ミッションビンゴやケーキデコレーション体験などの企画を通して、メンバーとご家族との交流が図られ、楽しそうに参加されている様子が多く見られました。普段体験することの少ない企画に触れていただくことで、日頃より支えてくださっている大切な方へ感謝の気持ちをお伝えする機会になったと考えます。また、活動報告ムービーを上映し、本年度の事業や取り組みをご覧いただく場を設けました。ご家族からも好意的な反応をいただき、青年会議所活動に対する理解をより深めていただくことができたと考えます。

年間を通して、海部津島青年会議所を下支えし、運動発信において確かな共感や信頼を得られるよう活動してまいりました。事務局として設営した賀詞交歓会やわんぱく相撲の例会については一定の評価をいただき、委員会例会設営においてもサポートを行うことができました。しかしながら、理事会運営においては上程スケジュールを遵守できず、結果として理事会構成メンバーに負担をかけてしまい、事務局として本来果たすべき役割を十分に担うことができなかった点を反省しております。以上を事務局の反省点及び申し送り事項とさせていただきます。

5. 委 員 長 所 見

本年度、事務局としてメンバーを下支えし、LOMの運動発信に対して確かな共感と信頼を得られるよう活動してまいりました。しかしながら、本年度6月より事務局長が休会となり、その役割を副理事長兼専務理事である高鵜が担うこととなりました。前年度に事務局長を経験していたにも関わらず、理事会運営を十分に機能させることができなかった点については、大きな反省が残ります。事務局は、予定者期間および年度終盤にかけて業務が集中する傾向があります。今年度は会議を円滑に進めるため、予定者段階から準備に取り組んでしましたが、議案数の増加とともに議案作成に追われ、各委員会への十分なフォローまで手が回らない状況となってしまいました。また、理事会資料の配信においても期日を守ることができず、結果として配信が遅れてしまったことは、事務局としてあるまじきことであり、深く反省しております。

議案配信については、本来であれば「より早い段階から計画的に準備を進める」必要がありましたが、実際には議案作成や日程調整に追われ、着手が後手に回ってしまいました。事務局として、年間スケジュールの優先順位を整理できていなかったこと、準備を個人で抱え込んでしまい、議案の進捗具合の共有が不十分であったことが主な要因であると考えます。今後は、事業ごとにいつから準備を始めるかの日付を決め、

事務局で上程する議案の情報や議案の上程スケジュールを表にまとめて管理し、担当者と共有することで、早めに動けるようになると思います。

青年会議所は「役を演じる組織」であると先輩方から伺っていましたが、その役割を十分に果たすことができなかった一年であったと感じています。本年度の活動を振り返る中で、私自身の大きな課題は「状況を整理し、自ら考えて行動すること」、そして「困難な場面で周囲に助けを求めて相談することができなかったこと」にあると感じております。課題を前にして向き合うことを後回しにし、「何とかなる」という怠慢から判断を先送りにした結果、最終的に多くの方々を巻き込み、ご迷惑をおかけしました。信頼を損ない、組織の一員としてふさわしくない振る舞いであったことを、重く受け止めております。特に、言いにくい事柄や苦手な分野こそ、早期に共有し相談すべきであったにもかかわらず、それができずに問題を拡大させてしまいました。やらなければいけないことを先送りしてしまう姿勢は、怠慢であり、上役としてあるまじきことであったと深く反省しております。青年会議所活動の経験を通して、責任ある役職とは「結果」だけでなく「過程への向き合い方」が問われるものであると痛感しました。

青年会議所は決して一人の力で成り立つ組織ではなく、仲間との協力と信頼関係によって大きな力を発揮できる組織であるということを、改めて実感した一年でもありました。議案の作成や例会設営をはじめ、多くの場面で多くのメンバーに支えられて活動できていたことを、深く感謝しております。

事務局は少人数体制でありながら、賀詞交歓会やわんぱく相撲をはじめとする、多くの関係者が関わる事業を担当しました。全体を通して大きな混乱もなく、円滑な進行が図れたことは、例会を構築した事務局長の尽力によるものであり、その功績は大きいと感じております。途中まで職務を全うしてくれた事務局長をはじめ、支えていただいた正副理事長、そしてすべての LOM メンバーの皆さまに、心より感謝申し上げます。一年間、誠にありがとうございました。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	670,880	事業費	227,825	(7)	450,000	(7)	133,500
				(13)	45,000	(13)	0
				(17)	65,000	(17)	54,095
				(25)	880	(25)	880
				(26)	50,000	(26)	39,350
				(27)	60,000	(27)	0
合 計	670,880	合 計	227,825	合 計	670,880	合 計	227,825